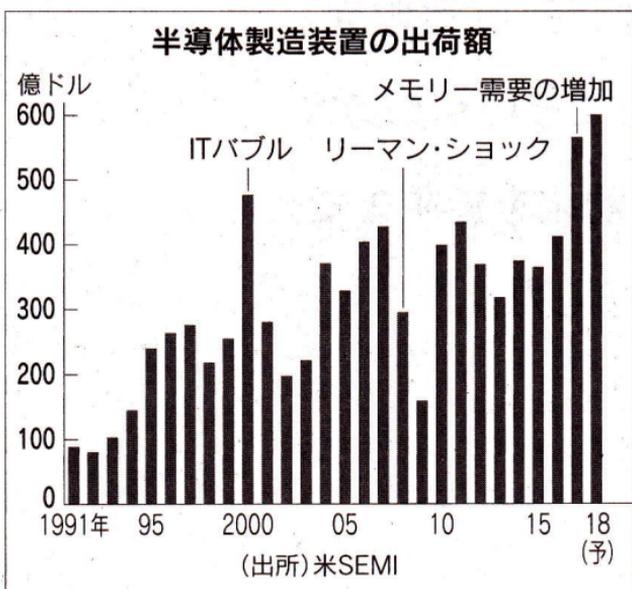


半導体製造装置の世界市場が6兆円を突破した。業界団体の国際半導体製造装置材料協会（SEMTEC）は9日、2017年の世界販売額が前年比37%増の566億ドル（約6兆円）になったと発表した。17年ぶりに過去最高を更新。18年も旺盛なメモリ需要や中国での積極的な設備投資が継続する見通しで、装置各社は成長投資を継続する。

半導体需要をけん引したのは、大容量のデータを保存できる3次元NAND型フラッシュメモリなどのメモリ製品で、スマートフォンやデータセンター向けに需要が高まっている。

半導体装置販売 17年ぶり最高

昨年の世界6兆円 設備投資、中韓で旺盛



地域別では韓国サムスの設備投資が盛んだった。韓国市場が前年比2・3

倍の179億5000万ドル（約1兆9千億円）と、世界最大となった。中国需要も販売額を押し上げた。中国当局は多額の資金を投じて半導体産業を育成しており、17年の装置販売額は82億3000万ドルとなった。中国は後工程に続き、19年にはウエハーを加工する前工程装置市場でも世界最大の市場になると予測されている。



メモリー製品が需要をけん引（東芝メモリの四日市工場）

活況を受けて製造装置各社は増産に向けた投資を進める。エッチング装置を手掛ける東京エレクトロン（東京エレクトロン）とトロン宮城（宮城県大和町）は、18年10月までに生産能力を約2倍に増やしたとの分析だ。

半導体市場については、楽観的な声が目立つ。歩留まり（良品率）向上による3次元NAND型フラッシュメモリー価格の低下を心配する意見もあるが、「価格が低下し、当面は装置需要の減少を招く要因にならないとの分析だ。

す計画だ。半導体製造装置大手のSCREENホールディングスは2018年度の設備投資を17年度比で4割増やす。彦根事業所（滋賀県彦根市）では約90億円を投じて生産棟を新設する。